

毎月一回十五日發行（定價一部五錢一年郵稅共五十錢）

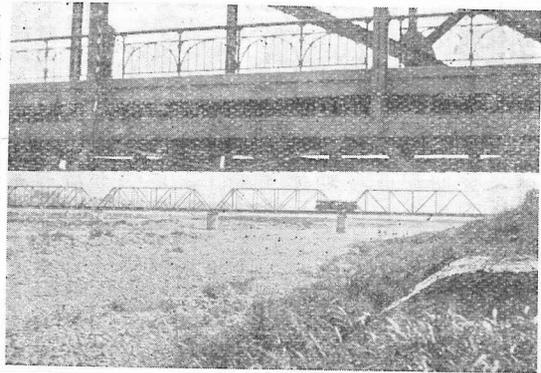


泥を吐く

栗 栖 超

君よ知るや北の國
夢の國、黒河の町を訪れた。北安鎮から更に北へ、美しい而も單調な大草原を過ぎた列車は真白い白樺の密林と、之に配するに艶な野の花の香はまことに無人の境、北滿の天國である。
むせかへるやうな花の香にあかす展望を樂しんでゐた小興安嶺の雄大ななそして豪快な高原風景も愈々國境地帯に入るに隨ひ物々しい氣が車内に滿ち異様の感を抱かしめられた。
途中、孫吳といふ小站がある。こゝから國境地帯に入る。車窓のブラインドが降され、本當の盲旅。見ると言へば見たくなる人情の常ではあるが外界の展望は絶対に出来ない。
煽風機の音が薄氣味悪く鈍い音を立て、首を振つてゐる。その音が船底に唸るダイヤルエンヂンに似てさながら船旅の感じだ。
愈々旅行免狀の検査がある。最近施行された國境地帯法によるもので、原籍、現住所から姓名はもとより年齢、旅行目的、旅行期間は勿論、そのコースまでも指定されてゐる。
僕達は身分證明證にて足るわけで、自由國境地帯を旅行することが出来る。偶然この地を訪れる機を得たのでその折見た事、きいた事など色々混ざりモータージニして或る角度から見た黒河を素描してみたい。抜けがけの旅行記でもあるわけである。

陽はややく西に傾く頃、僕たちの列車は黒河に著いた。站といふのは停車場のことである。
停車と同時に先づブラインドを上げて窓から首を出した。ロシアは何處だらうと誰もが思ふであらう黒河の町だ。僅か數時間のうちに目かくし列車の中で二度も旅行免狀の検査をうけ、いさゝか腐つてゐた爲に窓から明るい陽の光がサツと入るその瞬間の朗かな氣持は解放立秋（千曲川所見）三井寫眞館撮影



された嬉しき一杯だ。
樹木が美しいので田園都市とも言ひ度い眺めである。先づ馬の大きいのが眼につく。颯々と快い響を立て馬車を走らせ彼方に見える町へ急ぐのが二人、三人、歐洲映畫の印象だ。
それに引換へ何んと言ふ淋しい姿であらう。抜き櫛の姐さんが誰を待つやら、素足に塗下駄はお座敷まへの湯上り姿で國境の町に見る意外な風景だ。
『まあ、ようお越しやした』

編輯發行所 印刷所
編者 香野上野
發行所 香野上野
印刷所 香野上野

と言ふ上方言葉は漂ふ脂粉の香に乗つて人々をふりかへらせた。迎へられたのは僕ではない。江戸の遊女に長崎の着物を着せ京の揚屋で遊び度いと云ふ――そんな様な元氣のありさうな美聲のニッカイポツカー、四十男であつた。馴染みであらう。
宿へ急ぐ途中、僕の自動車は町の入口でこの姐さん等二人を乗せた馬車を追越した。

宿はロシア家庭の三階建。ベチカのある部屋で黒龍江に面し、すぐ其處にブラゴエの町が見える眺望絶佳、ソ聯の軍用機が低く飛び、兵營らしき建物がズラリと並んでゐる物々しい中に一段高くバラシニート練習塔が見える。
『ドンと一發、大砲が響いたら、手足まとひにならぬ様、好きな兵隊さんに、一おもひに殺して貰ひますよ』
この町にきて、飯を盛る宿の女中からこんな言葉をきいたといふ人があるが、笑へない言葉であると思つた。
この宿で喰つた鮭は殊の外うまかつた。
『こんなのをこゝで獲れるのかね』
ときいたら、鮭もゐるが、人を喰ふ鮫も居りますと答へた。

浴衣に庭履きを突つかけて黒龍江を見に出かけて川の畔に出た。
漢河の方から流れて来た筏が岸に沿ひ打ちよせる川波にゆれてゐた。軍糧や哈爾濱通ひの川船がゐる食糧や、燃料の薪を積み込んでゐた。
この對岸が八百米をへだて、赤旗の町アラゴエチエンスクである。ゼーア河が黒龍江に合流するところ、其處に榮えた町であつて、ロシア的な強い色彩とエキゾチックな香を發散してゐる都市で人口は十萬を越えたと云ふ。
ズラリと並んだ兵舎の背後にトーチカに護られた白亜の建物が望見せられるが黒河の町の王道樂土的色彩に比べて何んと無氣味な沈黙を續けてゐる事だらう。
空腹にたへかね路傍に行きたふれんとする巨人の姿を見るやうである。
數千頭の軍馬が水を飲みに来てるのや、軍用トラックらしいものを洗つてゐるのや向ふ岸に手くらしのやうに見える。橋でもあれば渡つて行くんだが渡れば最後、殺られてしまふ位がオチだらう。大事に使へば一生使へる一つよりない生命だから、むだ遣ひするのはやめて置き

度い。これでもまだ、沙婆に未練があるのである。
午後九時半をすぎても北の國の陽は沈まない。
昔ローマの國から文字が傳はる時、ロシアへの分だけ何かの拍子に活字の箱を引つくりかへしてしまつた。あまりにあらはたので裏がへつたまゝロシアへ傳へたのである。だからロシア語には左前になつた文字が使用されてゐるのだ。
これは黒河で省公署の實業科長Y先生から直接聞いた話である。始めのうちは眞剣にきいてゐたら飛んだ落し話であつた。きつとあの壯大な八文字體から捻り出した作り話であらう。
このY先生の好意で省公署のモーターボートを借用に及んで風雲急なる國境線に平行に黒龍江を數キロ溯航した。
『昨日は航政局のモーターボートがゼー

二五九七年代代表型

現代乾繭機界ノ王座
大和式自動輸送乾繭機

【各種型録贈呈】

製作發賣元 株式會社 大和三光商會
東京京橋區京橋三丁目二番地
電話京橋(56)五三二〇番

營業課目
機機置口裝器
燥燥裝1裝置
機機置口裝器
燥燥裝1裝置
機機置口裝器
燥燥裝1裝置
機機置口裝器
燥燥裝1裝置

ア河の入口で向ふの機關銃を積んだ監視船に追はれました。こんな事は時々ある事ですよ』
と運轉手が言つてゐた。滿ソ兩國領土を右と左に、白波を蹴つて航行する國境線上のスリルの快適は『八十五日生き延びる』といふ世上の言葉では言ひつくせないものだつた。
例のソ聯軍艦の撃沈はそれから數日の後のことであつた。
短い夏の夜が更けてゆくアラゴエは全くの死の都である。川に沿つて軍用道路に點々輝く電燈が冷く水に映つて、ウオツカの香の高い川風にいざよふ波と共に碎けてゆく。
赤い灯、青い灯に絃歌のさんざめきをみる黒河の町の孔雀の様ななややかに比べて何と死の如きアラゴエの無氣味さよ今宵もまた賭博場が繁昌するであらう黒河は滿洲のモナコだ。(一一、八、一一)

上田便り

母蟻検査成績 上田蠶取支所に於ける七月廿一日現在の母蟻検査成績は原蠶種一二二五(無毒)普通蠶種一九三〇六九一三(合格率九九・六九)で何れも好成绩を収めてゐる。

上田信濃兩繭の夏繭初取引 上田市内の信濃上田兩繭の夏繭取引は昨年より三日遅れて八月四日より開始されたが信濃繭では最高五圓三錢、最低四圓、平均四圓八十五錢、掛目廿八掛で昨年の初取引平均五圓四十四錢に比し五十九錢の安値、本年春繭平均相場に比すれば一圓三錢からの安値である。又上田繭は最高五圓九錢、最低四圓、平均四圓六十三錢、掛目は廿七掛見當であつた。

防護團結式 空都上田市を護るべく第一線に勇躍する市防護團の結式は八月六日午後四時半より市球場に於て舉行された。此の日雨模様悪天候にも拘らず七ヶ分團員即在郷軍人、男女青年團、愛婦及國防婦人會員等を始め各工場學校等の特設防護團、家庭防火團等二十餘名參集、皇居遙拜、國歌合唱の後團長成澤市長の開團挨拶に次いで聯合防護團長廣瀬上田署長の訓示、來賓代表の祝辭あり成澤團長の發聲で萬歳三唱五時三十分意義ある結式を終り小憩後六時より備派ガス、焼夷彈火災發生等の演習を協同し其の恐ろしい威力に何れも感嘆した。一致を心に誓つて午後七時閉會した。

菅平郵便局上棟式 菅平郵便局は七月廿九日起工以來工事は着々進行八月十日上棟式を執行したが工費三千圓開口五圓奥行四間半木造三階建ヒュッテ式モダン建物である。

武徳殿建物近く一段落 上田武徳殿附屬建物たる工費約千五百圓の事務室洗場便所等五葺平屋廿一坪は八月十日着工之れて建築物は一段落となり次に招魂社西隣へ弓道場を設けの手順である。

生絲の共同出荷一万五千俵 本縣生絲共同出荷組合では縣下各業者に對し共同出荷を奨励した結果年々増加の傾向となり本年八月十日現在の出荷高は千九百九十六俵で前年の千七百四十九俵に比し二百四十七俵の増加を示してゐる。尙最近三ヶ年の出荷高を見ると昭和九年八一六

七俵、十年九二二七俵、十一年一二七六八俵と増加してゐるので本年は一万五千俵は確實と見られてゐる。

上小教育會館起工 市内片平町二丸橋附近に新築される上小教育會館は愈々起工の運びとなり八月十二日地鎮祭を行つた。

夏蠶八分作 遑蠶と繭價の暴落に散々だつた夏蠶の成績調査は上田蠶取支所の手で纏められてゐるが八月十三日左の如く發表された。小縣平均八分五厘作、上田は八分作で蠶病は四齡五齡期に入つて空頭蠶軟化病の發生多く被書も一部に見られる。不作に依る收購減少高は小縣は本年夏繭産繭十二万九千貫に對し一万九千三百五十貫を減少、上田は本年四千五百貫に對し八百貫を減少してゐる。之れを平均四圓八十錢の今年夏繭平均相場を換算すると上小合計九万六千餘圓の損害となる。氣象關係は遑蠶期に雨天多氣温低く壯蠶期に高温多濕となり飼育困難、桑葉は遑蠶期に徒長軟弱で飼料價値少く桑の品種的影響が認められた。蠶飼育法の關係も認められない。特に不作の主原因と見るべきは不良氣象と遑蠶期の日照不足と軟葉を飼與したるに基因する蠶兒の虛弱に壯蠶期で高温多濕となつた爲めである。

上田局の速達便 逕信省では八月十六日より内地全体に擴張施行した速達郵便の運送便の外全國主要都市相互間に速達専用運送便を數便開設郵便運送のスピード化を圖つた。其の上田郵便局へは左の通り上下便四便の差立速達便が開設されたので急ぎの手紙や小包を速達で出せば非常に早く先方へ届けられる事となつた。

△上り速達便、午後二時三十分差立輕井澤高崎前橋東京の各地、午後五時廿八分差立輕井澤高崎熊谷東京の各地、下り速達便、午後四時十分差立長野高田直江津松本の各地、午後八時十八分差立長野。

全國中等學校野球大會に長商出場 全國中等學校野球大會信濃選は八月二、三兩日長岡中學グラウンドに舉行され長岡中學、長岡商業、松本中學、長野商業の四校出場二日松本中學は八A對〇で長岡商業に勝ち長野商業は一〇A對一で長岡中學に勝ち三日の決勝戦は長野商業は十

一〇〇で松本中學に大勝し甲子園出場權を獲得した。長岡の甲子園の戦績は第一次戦は不戦一勝となり十五日の第二次戦に於て六對四で山形中學に勝つたが十八日の準々決勝戦に於て強豪中京商業と額が合ひ九對〇で破れた。

上信高原へ團體殺到 館夏の地上信高原へ集むる團體は左の通り(八月二日現在含む申込) △大阪清水谷高女百二十名七日から一週間菅平、△東京高千穂中學廿三名一日から一週間新鹿澤、△法政ラグビー選手五十名十四日から三十日迄菅平、△早大ラグビー選手七十名廿二日から九月十日迄菅平、△一高蹴球部選手三十名廿八日から九月八日迄菅平、又八月一日より十日迄菅平に於て文部省主催体操講習會が行はれたが參加人員は六十名であつた。更に三年後のオリムピック東京大會制覇を目指して全國より選抜された体操選手候補者廿六名は八月十三日より十日間下津屋監督、本間、武田近藤、佐々野氏等のコーチに依り菅平高原文部省体育研究所に合宿し猛練習を行つた。

菅平新鹿澤選考 上田温電調査に依る七月中旬より八月下旬に至る新鹿澤菅平の宿泊人員及キャンパー数は新鹿澤は宿泊九八六四人、キャンパー二四七人でキャンパーは昨年より減少、菅平は宿泊七三三七人、キャンパー二二六二人でキャンパーは昨年より三分の一増加してゐるが全般的に事變の影響を受けて業者は大打撃を蒙つてゐる。

防空演習 縣下を舉げての最初の防空演習が八月十八、十九の兩日舉行される事となり上田市では十日に豫行演習を行ひ十七日には全縣的に豫行演習、續いて十八、十九兩日に渡り大規模なる本格的防空演習を舉行し好成绩を収めた。

三信鐵道開通 三河、遠州、信州三國を結ぶ中央線辰野と東海道線豊橋を結ぶ三信鐵道は八月二十日より開通した。

上小の秋蠶大豐作豫想 上小地方八月廿五日現在の蠶況は次の如く上田蠶取支所より發表された。即ち桑園は適高温の爲め生育よく山間部一部に止るため桑葉が豊富に採れたが被害は僅少である。桑相場は現在なほ幾分桑葉は過剰の見込み、蠶兒は秋蠶早く四眠中大並三齡過二眠中である。晩秋蠶は目下掃立中何れも最近の天候順調の爲め經過は良好、今秋蠶

は前年比一割五分の増産の上に蠶況良好なれば收購量は可成の増加を豫想されてゐる。蠶種家は現在二期の母蟻検査を終了した所て成績良好である。

原蠶種沈降検査 北信地方自家用原蠶種の母蟻検査は全部上田蠶取支所で行はれるが一般は漸次検査費用沈降検査を要するるので検査費用負担分は北信地方を通じて廿六萬圓、上小地方は十九萬八千圓に對し上小地方のみで既に廿六萬圓を突破してゐるので約十七萬圓は蠶種家自身の負擔となる模様である。然して上田蠶取支所では八月廿八日より北信地方蠶種の沈降検査を開始した。

蠶種被毒激減 上小蠶種業同盟管下の本年度蠶種製造は督勵委員等を設置努力した効果があつて上田市被害率一四・七%、小縣一三・四%で昨年の上田市一四・九%、小縣一三・三%に比して飛躍的な好結果である。之は養蠶期に低温の爲め發生少く捕獲器を完備した爲めである。

種蠶製造三分減 上田蠶取支所管内本年度蠶種製造家飼育種蠶の蠶種被害は被害率一一・九二%と、歩合八四・七%に對し減少理由は氣象的に悪化した上に充分注意を行つた事である。尙之れを三百二十八種蠶家の被害程度別にしてみると被害率五%未満七十三名、十%未満百廿四名、三十%迄百廿一名であつた。

安値にも乾繭保管を決議し 繭價安に對して乾繭保管を決議し上小繭絲販賣所屬の加入養蠶實行組合より夏繭供繭を行はうとした各町村産業組合では繭取扱主任者が懸命になつてゐるが一般養蠶家としては繭價が四圓台を割らぬ限りは生繭販賣を行ひ乾繭へ動く氣配は見えず。又今回の繭價安が原因を事變の取引不活潑に歸してゐるので乾繭保管を行つても先へ行つての値段回復が現在の處全然見透し得ないといふ點にもある。

菅平土地分離 スキーと遊樂地の菅平の開發を計畫してゐる北信牧場では縣立菅平青年講習所の北方約十萬坪を分譲する事となり夫々土地會社等に斡旋方を依頼したが區劃は千五百坪のもの十四地區千坪のもの廿八地區で大体坪當り三十錢である。

越年蠶種一割増産 上田蠶取支所管内の蠶種家越年蠶種春季製造額は千七百七十

八萬噸で昨年製造千八萬噸に比して一割の増産となつてゐる。製造品種中主なものをみると歐十六、支十六系が三四%、日一一・一%支一〇・七%、支一七%、歐八・八%支一〇・七%、支一八%、支一七%、支一八%となり交雜品種は増へてゐるが大勢から見ると逐次日一一・一%支一〇・七%に統一されつゝある。

市場取引一割二分減 上田商會事務所調査になる本年春繭上小繭市場取引状況は合計十一万一千七百七貫(内黃繭四十三貫)六十八万六千五百五十三圓、一貫當平均相場六圓四十八錢となり前年比一割一分九厘(一万五千五百五十五貫)減なるが金額が貫當り九十二錢増の爲め合計六十六万二千八百八十一圓四十錢と三分六厘(二万三千六百七十一圓)の増加を示した。然して上小春繭總産額の推定は廿五万二千貫で前年より減少見込であるから市場取引は減産の影響を受けたにしても此の外製絲特約の進出が相當響いてゐると見られる。養蠶業組合の共同出荷にも拘らず一割二分の減少を招いた譯で市場は早くより撤收をなす等産繭處理をめぐり随分悩みの時代に遭つてゐるのを伺はしむるものがあつた。それでも推定總産額に對する市場取引割合は三割一分二分に當り前年の三割二分に比し僅かの低下に當り止めてゐる。因に昭和七年以降春繭上小全産額と市場取引割合を示せば左の如くである。(十二年は推定)

全生産(貫) 市場割合(%)

七年	四五六〇二六	五二
八年	四六七五九六	五六
九年	四五二二一八	四五
十年	四一六二二〇	四一
十一年	三九五七六三	三二
十二年	三五二〇〇〇	三一
又上小春繭市場は大屋繭絲が休場して八市場となり六月十七日信濃上田兩市場を最初に七月二十日丸子繭絲を最後に各市場取引量は左の如く丸子、依田窪兩市場のみ昨年比し増加してゐる。		
信濃	一一七〇五貫	
上田	一、八三〇	
東北	四、九一九	
川西	三、〇四七	
田中	九、九四七	
大塚	一一、七〇一	
丸子	二二、七二九	
依田窪	二四、一三三	
合計	一一一、〇一七	

母校ニュース

蠶一養蠶實習 蠶一は八月三日掃立を

行ひ、山口助教指導のもとに實習をつゞけて来たが、いづれも上々の成績にて春蠶にも劣らぬ繭を得、三十日製絲部へ引渡した。
學校長訓話 八月四日午前十一時より第八教室に於て當日出勤せる職員學生に對し今回の北支事變に就て針塚校長より訓示があつた。尙暑中休暇歸省中の學生に對しては要旨を印刷の上五日送附した。
防空演習 防空演習の八月十日の市の豫行演習、十七日の縣下豫行演習、十八、十九日の演習に對し母校に於ては防護團を結成し市と呼應して演習を行つた。
全信州庭球大會に出場 八月廿二日岩村田町に於て岩村田庭球大會主催全信州庭球大會開催され出場九十餘組に達し本校よりは職員學生合計八組出場、職員兒

『蠶絲學雜誌』の支援を請ふ

事務、編輯等一切刷新のため發行が豫定より遅れましたが愈々第十卷第一號は近日出來の運びになりました。此の學界奉仕事業に絶大の御支援を請ふ。

主要内容

- 粉末比重の桑葉々質判定上の意義……………岡部康之
- 肥料要素の桑の葉質並に收量に及ぼす影響……………須田圭二
- 絹織維に對する酸性液中溶解の影響……………小松忠一郎
- 最近に於ける絹織維染色化學の問題……………小松忠一郎
- 最近に於ける蠶絲化學と蠶絲の用途……………井上柳梧
- 繭絲織度と養蠶法との關係論文抄録……………勝又藤

上田市 生絲の國社内

蠶絲學雜誌發行所

蠶絲學雜誌第十卷第二號原稿募集

蠶絲學雜誌第十卷一號は多數寄稿者の御好意により八十頁餘のものに相成りました。編輯内容の改革と販賣方法の改變によりまして意外の遅延を致しました事は編輯者誠に恐縮致して居ります。唯今印刷中なれば近日中に御購讀者御手許に御送り申す運びとなり度いさ考へて居ります。其處で十卷一號の編輯を直ちに初めたいと思ひます。何ぞ多數御投稿下さる様希望いたします。
尙會員諸兄中には立派な原稿材料を御持ちになられ乍ら種々の都合上又億劫等の念より御投稿下さらぬ會員諸兄が多々ある様であります。其等の念を捨てられ、尙原稿料等の問題も編輯幹事の間で目下考究中なれば、吾等の機關雜誌である蠶絲學雜誌をよりよくするためにごし、御投稿を希望いたします。原稿用紙は母校内編輯部宛宛入用の旨通報下されば直に御送り申します。

蠶絲學雜誌編輯室

玉湯原組は決勝戦に於て惜しくも破れた。準決勝以後の戦績左の如し。

決勝戦
兒玉湯原(蠶一)四―三桑原馬場(岩協)
倉石小林(高嶺)四―〇鹽川井出(小諸)
決勝戦
倉石小林(高嶺)四―一兒玉湯原(蠶一)

香山助教奨励金を交贈さる 母校紡織科香山助教は昨年に引續き八月廿六日附を以て昭和十二年度文部省自然科學研究奨励金五百圓也を交附される事となつたが研究事項は昨年と同様の『絹絲紡績法に依る人造織維紡績に於て製綿及前紡工程の大部分を省略し得る人造織維を製造する方法』である。
夏期練習 校友會各部は秋季對抗戦を目標して八月下旬より九月初旬にかけて猛烈なる夏季練習を行つた。其の内柔道部は蠶室に合宿し母校道場に於て清水五段のコーチを受け八月廿五日より九月十日迄、剣道部は蠶室に合宿し母校道場に於て八月廿八日より九月十日迄、弓道部は蠶室に合宿し母校弓場に於て八月廿五日より九月十日迄、庭球部は東寮に合宿し母校コートに於て八月二十日より九月四日迄、蹴球部は高岳寮に合宿し母校運動場に於て八月三十日より九月十日迄、卓球部も高岳寮に合宿し母校生徒控室に於て八月廿五日より九月四日迄、競技部は民家に合宿し市營運動場に於て八月廿五日より九月七日迄、野球部も民家に合宿し市營球場に於て八月廿五日より九月十日迄、辯論部は第八教室に於て九月一日より四日迄何れも練習を行つた。

應召者 今回事變に對し母校より應召せるものは學生にて西野久(蠶一)村瀬益男(蠶一)鷹野陸二郎(絲一)根岸市郎(紡選二)岡宮辰夫(蠶選三)中島健爾(蠶選三)の六君、業手にて中澤嘉人君である。

叙任辭令

母校之部 正五位勳五等 佐藤利一
敍從四位(八月十六日)
舊職員之部 從四位勳四等 早川直瀨
退職積立金及退職手當法施行令第二十七條第二項ニ依り群馬退職金審査會委員ヲ命ス(八月十六日)
卒業生之部 從六位 坂田榮雄
敍正六位(八月二日)
地方農林技師 中津信一郎
十一級俸下賜(七月十四日)
公立實業學校教諭 山口貞周
七級俸下賜(但當年俸千五)(六月廿日)
百八拾圓支給
正六位 沖 濤治
敍從五位
從六位 竹内五之助
敍正六位(以上八月十六日)

本會記事

本會日誌

八月七日 福島縣蠶絲課長佐藤壯太氏御逝去に付電報にて弔意を表す。
八月九日 各支會長に支那事變應召者調査依頼す。
八月十七日 校内理事參集事變應召者の件に就き協議す。

會費領收

昭和三十二年會費納入者
兒玉信尊(蠶十五) 戸部正久(蠶十九)
入佐一郎(蠶廿一) 山内一(蠶廿三)
小川茂治(絲廿二) 三宅靜雄(絲廿四)
入會金納入者
金五圓也 諸岡市郎(紡十六)

計報

弔慰金募集

故宮下京三氏(蠶十二)に對する弔慰金を募集致します。右弔慰金は十月末日迄に取纏め御遺族へ贈呈致し度いと思ひます。其の間に合ふ様振替口座東京東三三四番へ同氏弔慰金の御記入の上御拂込下さい。
昭和十二年九月 千 曲 會

宮下京三氏遺影



弔慰金報告

故依田彌亮氏弔慰金第四回
金五圓也 橋詰英雄
金壹圓也 由井千幸
金五拾錢也 北澤周一
右合計金九圓五拾錢也 鳥倉督造
累計金八十圓五拾錢也
故宮下京三氏弔慰金第一回
金貳圓也 仲内 靜 北島 正生
井上兵一郎 結城 鎮男
丸山十吉 谷川 海造
小泉 清明 安川 寛
杉浦卓三
栗栖 忠士
金壹圓也 栗栖 忠士
右合計金拾九圓也

御挨拶

日毎に空高くなつて参りました。愈御健勝の御事存じます。私事此度上田に参り母校に於て日本蠶絲總覽の編輯を致すことになりました。就ては何卒倍舊の御援助御指導をお願い申上げます。先は不取敢御挨拶まで。

千曲會館内 小見 益男

支會通信

南滿の雄一堂に會す

安東千曲會特報

南滿の雄は酒が強くして心臓は強い... すべて事に當つて一騎當千、一堂に會せる姿や巨鯨を集めて並べるが如し...

○三浦先生 とても御元氣です。昨年長男生れ出て勇氣百倍、その偉なるエナジー若き者顔色なし。安東の主に...

○堤先生 世界的酢蠶維維學者、今度安東より去られ新京に移らる。巨星去つて安東暗黒! 酒の相場もくるいまた。

○岡崎先生 スマートな事安東一 (最近横濱から來られました) とてもお静かですが酒は限りなき實力を持つて居られます。奥さんと、とても仲が良いです。...

○本間先生 滿洲酢蠶界の大恩人! 酢蠶の増産計畫と共に酒の増産に研學の人、ウイスキーと葉巻でヒゲ氏と共に

ノビたる事あり。最近の内嫁さんを貰ひます。獨身會費退料がさぞ高い事と考へるだにヒヤツとします。

○益洲先生 シローと呼ばれるがラクタ男。學生時代には禁酒會の主軸。今では驚く勿れ近酒會の顔役。氣にかゝるのは頭の毛の薄くなりつゝある事と安東一のコンビネーションがいくらで人の手に落ちる事やら。

○小松先生 ヒゲと云ひます。酒とキモツ玉の強い代表的滿洲型心臓の持主、かつて鴨綠江の氾濫時に濁水を乗り切つて検査所員(滿人)の母を救つた美談を持つ。...

○上兼先生 絶対にビールを含まず酒を好む處の變つた國粹的純情青年。ペン()の歌は有名。彼の純情を試めさんと滿洲國某大官(先輩)が一芝居やられた處、あまりにも計畫通りに行きすぎて賞賛以上の實感が用たとは誰れたエピソード。

○萩原先生 滿洲酢蠶界の一大恩人、酢蠶検査所の大立役者、その字の上手な事は五尺有餘の男子も顔負け、身体の豪壯雄大なる事又目出度し。...

もはや一滴のアルコールも喉を通らなくなつて散會、のびたる者一人も無し。

會員動靜 (九月六日現在)

- 中村恒雄(職) (勤)ナン(住)上田市水道町一九三
坂田榮雄(職) (勤)福井市、福井縣農務課
三好圭一(職) (入隊)久留米山砲兵補充隊第四中隊
小松茂久(職) (勤)高知縣香美郡山田町、高知縣蠶種共同施設組合望徳社
川島藤太郎(職) (勤)務先ニ同シ
内川勇(職) (勤)從前通り(住)京都市上京區紫竹東高繩町四四
村田孝男(職) (勤)ナン(住)埼玉縣秩父郡野上村大字藤谷六
古越保光(職) (勤)山梨縣北巨摩郡韭崎町、山梨縣蠶業取締所韭崎支所
榎本重男(職) (勤)山梨縣北巨摩郡韭崎町、山梨縣蠶業取締所韭崎支所
小林清松(職) (勤)山梨縣北巨摩郡韭崎町、山梨縣蠶業取締所韭崎支所
宮村充(職) (勤)山梨縣北巨摩郡韭崎町、山梨縣蠶業取締所韭崎支所
雨宮金雄(職) (勤)從前通り(住)東京府立川町一四三八
河田英一(職) (入隊)歩兵第五〇聯隊第二中隊
竹内博雄(職) (勤)從前通り(住)東京府立川町一四三八
赤池勝夫(職) (勤)從前通り(住)東京府立川町一四三八

- 高田正一(職) (改姓)稻葉ト改姓(勤)愛知縣丹羽郡布袋町、愛知縣蠶業試驗場(住)名古屋市中區波奇町六三
水谷正清(職) (勤)遠山部隊見波隊
前島直(職) (勤)遠山部隊見波隊
羽吉正雄(職) (勤)朝鮮平安北道博川郡博川、平安北道蠶業取締所博川支所
小松茂男(職) (勤)湯淺部隊宇田川隊
川中貞次(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
關本三郎(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
坂本三郎(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
北村中太郎(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
蒲生勇一(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
川船卓爾(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
中津信一郎(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
小平光雄(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
望月榮作(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
片倉二郎(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
野田太(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
酒井淳(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
瀧澤幸一(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
梅村義一(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
本間茂(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
黒木勝(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
平野正夫(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
山本金之助(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
萩原進(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
小松進(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
上木忠義(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
渡邊綱男(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
宮原英俊(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
山口悠紀(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
山浦克巳(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
秋山實(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
神崎一(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
山寺豊一(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
清水保(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
後藤政之(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
清水六郎(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
藤田齊(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
松崎武雄(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
岩田恒次(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
木曾信雄(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
近藤義信(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
浅沼義男(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
細井政吉(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
木下重(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
中川正(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
矢澤登(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
飯島六(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
山崎六(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二
吳子(職) (勤)東京市大森區池上徳持町三三二

編輯室より

九月號は學校記事の少い處へ會員諸氏が國家非常時でそれどころでは無いと云ふ譯か寄稿が非常に少かつたのでオンリ一六頁と云ふ事になつてしまつた。斯かる事は編輯子が本紙を引受けてから始めての事である。紙數減少と云ふ事はハルプ使用制限の今日、いゝ事かも知れぬがそれよりも非常時克服の意味で非常時に房はしい記事がどしどし投稿される方がどれ丈望ましいか譯らない。切に御寄稿を望んで止まない。

九月號から又印刷代が約一割値上となつた。前回の値上げと合すると二割以上となる。然し市値が約四割値上とすれば已むを得ないとするより仕方があるまい然し斯ういつても決して投稿制限の豫防線では無い。

優良蠶種豫約募集

- 昭和十二年度秋、晩秋蠶種
×國蠶日一一一號
×國蠶支一〇七號
×國蠶日一一一號
×國蠶支一〇七號
×龍華
×國蠶支一〇七號
×國蠶支一〇七號
×國蠶支一〇七號
×國蠶支一〇七號
優良品種、適地分場、設備完全
廣島縣御調郡奥村綾目八六
蠶種業 小川保
電話(市村局)一四六番
振替(廣島)二四六番
(大阪)三三三番
電報別便配達料不要